保健室

静岡市立千代田小学校

養護教諭　渡邉　節子

本校は、清水区とつながる北街道沿いに位置し、国道1号線、静清バイパス、流通センター通り等の幹線道路に囲まれ、静清地域の大動脈としての役割を担っている地域です。また急速な都市化により農村地帯から住宅地帯へと変容し、流通関係企業の進出や商店、飲食店が軒を連ね、年々交通量が増大しています。

明治40年創立の本校は、昨年創立100周年迎えた伝統ある学校です。正門近くには樹齢60年を越えた立派なくすの木がそびえ本校のシンボルとなっています。今年度は「新世紀くすの木教育元年」をかかげ、「活力のある子」を教育目標として、自己肯定感を育てる人間尊重の教育、認め励まし褒めて伸ばす「くすの木教育」を実践しています。

総合的な学習では農業生産体験や食品加工、食体験等の実地を通して、食と健康との関わりや命の大切さを学ぶ「食農教育」に力を入れています。今年度は、普通学級25、養護学級4の計29学級907名でスタートしました。5月より複数配置校となり二人の養護教諭が協力して保健室経営にあたっています。年間3000件近い保健室利用の子どもたちへの対応は、二人でみることで、きめ細かく多角的に判断することができ、応急処置も迅速に対応できます。

6月には「歯の保健指導」を年間計画の中に位置づけ、3年生を対象にカラーテスターを使用して「自分の歯並びに合った磨き方」を学習しています。磨いているつもりでも磨けていないことに気づき、指導後は丁寧に磨くことができるようになりました。

発育測定時のミニ保健指導では、毎回学年ごと実態に合った指導を実施し、保健学習では、養護教諭の専門性を生かして学級担任と協力しながら授業を実践しています。また、保健室登校の子どもたちや特別支援を必要とする子どもたちにも、組織的に対応できるようケース会議を重視し、関係職員と連携をはかっています。

保健室は身体のけがや不調だけでなく、心のけがや不調で来室する子どもたちも多くいます。話したい、聞いて欲しい、甘えたいなど精神面での来室が、年々増加しているように思います。ひとりでは対応しきれないことも、複数の養護教諭で、きめ細かく、優しく、時には厳しく日々の子どもたちと接しています。

ひとりひとりの身体と心を大切にして、子どもたちが生涯を通じて、健康で安全な生活を送ることができるように支援していきたいと思います。

富士市立富士川第一中学校

養護教諭　丸山　恵子

生徒たちと教師のさわやかな「おはようございます」の挨拶で一日が始まる本校は、日本三大急流のひとつである富士川の西に位置し、川の向こうに雄大な富士山を眺めることのできる風光明媚な環境にある学校です。昨年十一月に富士市との合併に伴い、校名が富士川町立第一中学校から富士市立富士川第一中学校に変わりました。しかし、そこで過ごす生徒たちは、何も変わることなく明るく素直に教師の指導に熱心に耳を傾けています。朝の挨拶だけでなく、「こんにちは」「さようなら」の挨拶も気持ちよく交わされ、それはすばらしい合唱の歌声と共に本校の自慢となっています。

その生徒たちの大半は、同じ小学校から入学してきます。そのため、保健指導は小学校での指導の上に積み重ねていくことができます。これは本校だけでなく、旧富士川町内の他の中学校においても同じことが言えます。地域にあった保健センターの協力のもとに小学校三年生と中学校一年生を対象とした歯科衛生士によるブラッシング指導、小学校四年生と中学校二年生を対象とした保健師・栄養士による小児生活習慣病予防教室、小学校六年生と中学校三年生を対象とした医師による喫煙防止教室と思春期講演会を行ってきました。

これらの保健指導を通して生徒たちからは「小学校のブラッシング指導の時、薬で染めたら歯がまっ赤だったから、ずっと気をつけてきた。今日は、あまり赤くならなくて良かった」とか「小学校の時の話を半分ぐらい忘れていたけど、思い出すことができて良かった。もう、忘れないで自分の将来に生かしたい」などの感想を聞くことができます。まさに「継続は力なり」を感じます。市町合併で今までのような指導が継続できるのかわかりませんが、いろいろな場面で生徒たちが「自分の体は自分で守る」という意識が持てるよう支援していきたいと毎日を過ごしています。

加えて、大半の生徒が楽しく学校生活を送っている一方で、いろいろな要因で登校が渋りがちな生徒もいます。そんな生徒が少しでも学校に足が向くように、スクールカウンセラーや心の相談員と連携を取り合っています。その甲斐あってか久しぶりに登校して来た時に「先生、来たよ」と保健室に寄って声をかけてくれると気持ちが温かくなります。こんな小さな喜びを糧に生徒と共に元気に歩んでいきたいと思います。

げんきな事業所

株式会社 キャタラー（掛川市千浜）

◆会社紹介

㈱キャタラーは、掛川市の最南端に位置し、緑豊かな環境で、2005年には関東経済局より『緑化優良賞』を受賞しました。

当社は、1967年袋井市下山梨において㈱キャタラー工業を設立後、1971年、現在地に本社を移転、1998年㈱キャタラーに社名変更して、現在に至り、昨年創立40年を迎えました。

従業員は現在、期間契約社員、派遣社員を含め約820名です。

当社は主に「自動車・二輪車排ガス浄化用触媒」「活性炭」の開発、製造、販売を行っています。排ガス浄化用触媒は自動車や二輪車などが排出する有害な一酸化炭素・炭化水素・窒素酸化物などを無害な二酸化炭素や水などに変える働きをするものです。自動車用触媒は、車が走行するあらゆる条件に適合させなければならないので使用条件が広く、かつ非常に厳しいため高い技術が求められます。

当社では、最大取引先のトヨタ自動車㈱殿など各自動車メーカーと協力して開発を進めていく体制をとっており、その技術は世界の自動車メーカーから高く評価されています。

この技術を応用して、二輪車用触媒やレジャービークル・芝刈機などの原動機用排ガス処理触媒の開発・生産も行っています。

◆健康管理体制

社員の健康管理は、非常勤の産業医1名と保健師1名、及び総務部員で担っています。

①健康診断の実施とフォロー

当社では、定期健康診断（年一回）及び特殊健康診断（年二回）を実施しています。

健診後のフォローは、健診結果が「再要検」・「要精密」・「要受診」と判定された従業員に対し、2次健診を促すと同時に日常の生活習慣を見直すよう働きかけ、従業員一人ひとりの健康増進に努めています。また、様子を見たほうがよい「要観察」と判定された従業員に対しては、産業医・保健師が健診結果の内容を確認の上、健康相談の場を設け、成人病の予防等を含めた健康指導を行っています。このフォローにより再検査の受診率も年々上昇しています。

②産業医面談、健康相談

不安や、悩みを抱えた従業員に対して、早朝のメンタルケアーにより大事に至らないようメンタルヘルスを専門とした産業医による面談を予約制で月一回以上実施しています。

〈健康づくり講演会〉

「腰痛、肩痛の予防法」

毎年、テーマを決め、衛生・健康面についての講演会を企画しています。

昨年度の産業医によるメンタルヘルス講演会に続き、本年度は、11月20日に「腰痛、肩痛の予防法」についての講演会を実施しました。市内の病院より、理学療法士を招き、ご講演いただきました。足裏のマッサージなどの実演に、従業員も裸足になって参加し、講演後は従業員から体が暖まったとの感想をもらいました。

◆今後の取り組み

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく、特定健診・特別保健指導への対応を推進すべく、保健師を含め指導計画を企画中です。

最後に、

心身ともに健康であってはじめて、良い仕事ができ、品質の高い製品を開発できます。

今後とも、従業員の健康維持・増進のため、健康づくりの活動を展開していきたいと考えています。

第33回 学校保健セミナー講演会のお知らせ

演　題　「本当は知っておきたいケガの予防・処置」Part.2
講　師　専門学校浜松医療学院アスレティックトレーナー学科長
　　財団法人日本体育協会公認アスレティックトレーナー　寺坂　エ（アイチ）先生
日　時　平成21年2月12日（木）　13：30～15：30
会　場　静岡グランシップ　会議室1001-2
主　催　㈶静岡県予防医学協会・静岡県学校保健会
後　援　静岡県教育委員会・静岡県私学協会
申込み　FAXで、静岡県予防医学協会静岡本部へ2月9日までにお申込みを。（FAX. 054－278－7717）